

加賀野菜

金沢一本太ねぎ

栽培マニュアル



加賀野菜「金沢一本太ねぎ」栽培マニュアル
発行 平成31年3月
発行元 金沢市
監修 金沢市農協軟弱野菜部会
編集 金沢市農業センター
金沢市下安原町東1477
電話 (076) 249-2744
FAX (076) 249-4470



【金沢一本太ねぎ】

科名 ヒガンバナ科
代表産地 金城地区、富樫地区



特徴
分けつせず軟白部分は大きくて長く、肉質は軟らかい。原種は長野県松本地方より導入したものとされ、別名「マツエタ葱」「金沢一本」などと呼ばれ、昭和30年代半ばまで北陸以北における寒地型の一本太ねぎとして一世を風靡した。

品種特性
夏ネギ型で寒さに遭うと生育は弱まる。苗の越冬性が高い。葉は濃緑色。



1 播種・育苗

【播種時期】

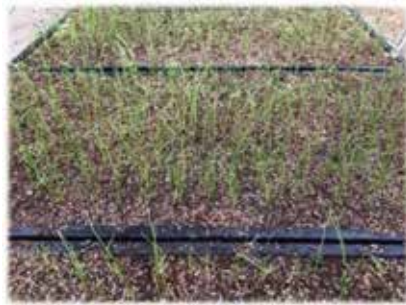
- ・春播きネギの育苗には3月上旬の播種で100日前後、3月下旬の播種で60日前後を要する。
- ・定植予定日から遡り、播種日を決定する。

【播種の準備】

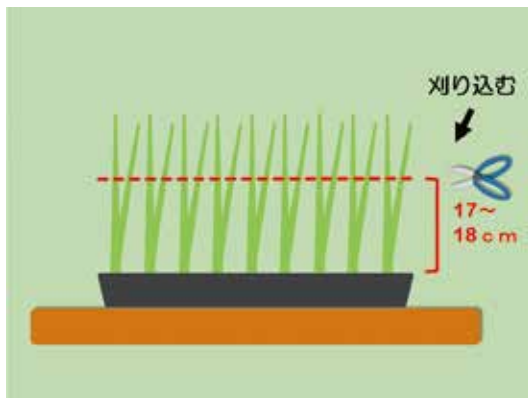
- ・ネギの播種は定植作業を考慮し、チェーンポットを使用すると良い（セルトレイや露地での育苗も可能）。
- ・チェーンポットに床土を詰め、表土が均一になるように均す。
- ・播種床に温床線を張り、その上に12cm程度の厚さで床土を盛る（園芸用の保温マット等を使用しても良い）。
- ・チェーンポットは十分に水分を含ませ、播種当日までに15度程度まで加温しておく。

【播種】

- ・専用播種機や手作業で1穴あたり2粒播きとする。
- ・播種後、種子が露出しない程度に覆土を行い、灌水する。
- ・保温と保湿のため新聞紙（ピアレスフィルムでも良い）をかけ、再度、灌水を行い、新聞紙を湿らせる。
- ・温度の上がりにくい播種床の端は、さらにポリフィルム等で被覆すると良い。
- ・新聞紙が乾燥してきたら、地温程度に温めた水で灌水を行う。
- ・発芽までは、地温で15度を目標に管理する。
- ・発芽後は加温を止め、通常のハウス内気温での管理とする。2〜3日間は不織布を掛け、急な温度変化を避ける。
- ・灌水はやや控えめとし、過湿にならないようにする。



発芽約2週間後の様子



刈り込む
17~18cm

【温度管理】

- ・生育適温は15〜20度。
- ・ハウス内温度が30度以上にならないように管理する。

【刈り込み】

- ・苗は太さ2〜2.5mmを目標とし育苗を行う。
- ・草丈が伸び過ぎると倒伏し生育がばらつくため、17〜18cmを目安に刈り込みを行う。
- ・数が少ない場合ははさみを用い、多い場合は生け垣用のバリカン等を用いても良い。

育苗管理のポイント

- ・床土が乾燥し過ぎると、葉先の枯れや萎れを招く。特に育苗箱の縁の部分が乾きやすいので丁寧に灌水する。
- ・灌水が多いと徒長しやすいので注意する。
- ・定植の10日前頃から徐々に外気温に慣らしていく。



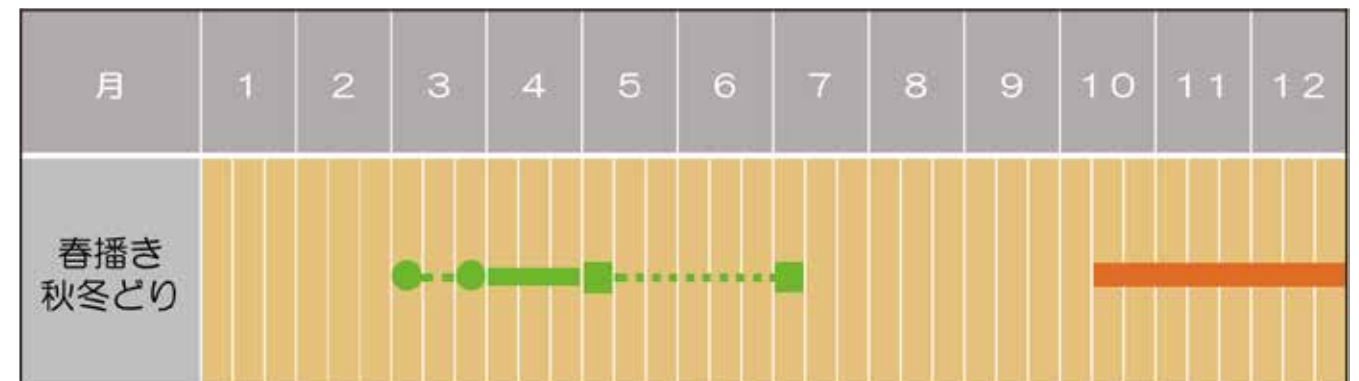
生け垣用バリカンでの刈り込みの様子



刈り込み後の様子

栽培カレンダー

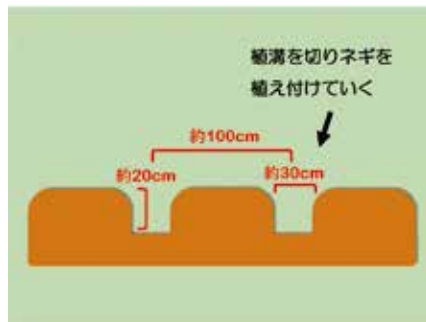
● : 播種 ■ : 定植 ■ : 収穫



2 定植

【定植までの準備】

- ・ 前年の収穫後に、石灰窒素を10aあたり60〜100kg程度を施用し、耕起しておく。
- ・ 定植2週間前までに基肥を全面施用し耕起する。
- ・ 適切な条間は土壌条件によって異なるが、標準を1mとし、植付け溝幅は約30cm、深さ約20cmとする。
- ・ 植付け溝の深さは圃場の地下水位や排水性を考慮し、乾燥地は深く、湿地や定植時期が低温の場合は浅くする。



【定植】

- ・ 定植は簡易定植機を用いて行う。
- ・ 定植後、チェーンポットが隠れるように覆土し、傾いた苗木を起すなどの手直しを行う。
- ・ 雑草の発生が心配される圃場は、定植の後2〜3日頃に、除草剤を散布すると良い。
- ・ 定植1週間後に複合肥料の追肥を行う。

施肥設計(例) (kg/10a)

肥料名	基肥	追肥(約5回)	成分量
園形30号	120		N : 19.9
硫安	30		
牛糞	600		P ₂ O ₅ : 13.6
複合肥料333		3.5	
日の本3号		3.5	K ₂ O : 13.5
有機特A801		10.5	



溝切りの様子



簡易定植機での定植

3 土入れ・植溝ふさぎ・土寄せ

【土入れ】

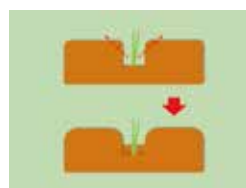
- ・ 定植2〜3週間後または葉鞘径が8〜10mmになった頃に土入れを行う。この際、同時に2回目の追肥を行い、根の伸長を促進する。
- ・ 土入れは葉身分岐部までとする。

【植溝ふさぎ】

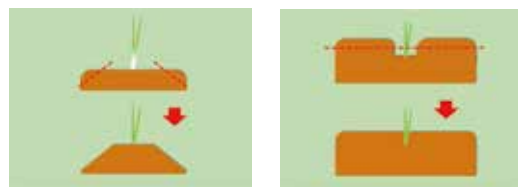
- ・ 生育を見ながら3回目の追肥を行う。この際に畝を削り、植溝をふさいで水平にする。
- ・ 6月以前に定植を行った場合は、植溝への浸水を避けるため、可能な限り梅雨入り前に実施する。

【土寄せ】

- ・ 植溝ふさぎの後、20〜30日の間隔を目安に土寄せ・追肥を3回程度行う。
- ・ 1回目の土寄せは葉鞘径が14mm以上を超えてから行い、倒れない程度とする。
- ・ 葉鞘径が18mm以上、葉身分岐部までの長さが27cm以上に達した頃を最終の土寄せとする。



土入れ



土寄せ

植溝ふさぎ

作業のポイント

- ・ 作業は日中の高温時を避けて早朝または夕方に行う。
- ・ 葉身分岐部まで埋めると生育遅れや痛みの原因となる。
- ・ きれいな軟白にするため、土塊などによる隙間をなくすよう手直しする。
- ・ 最終土寄せ後、降雨により土が崩れた場合は手直しをする。

4 風対策

- ・ 金沢一本太ねぎは、風に非常に弱く折れやすいため、荒天が予想される場合は、必ずビニール紐や弓を張る対策をとる。



ビニール紐での対策



弓での対策

6 調整・出荷

- ・ 収穫後は、速やかに日の当たらない室内へ運び、調整作業までは曲がりを防ぐため立てて保管する。
- ・ 傷、虫害のあるものや、形の悪いものを取り除きながら、規格・階級ごとに丁寧に箱詰めを行う。
- ・ 箱詰め後は出荷まで日陰で保管する。

5 収穫

- ・ 畝の片側または両側を鋤で崩し、ねぎを引き抜きやすくする。
- ・ 収穫は数本をまとめて掴み、やや斜め上に引き抜く。
- ・ 収穫したものは、ネギ用収穫ネットで包んでおくと、その後の作業性が高まる。



まとめて掴むと傷みにくい



収穫ネットで包んで持ち運ぶ



根切りを行った後、機械による皮むきを行う



出荷規格に合わせ葉切り



滑りのよい丈夫な紙で包み、束ごとに袋詰め



箱詰めを行い完成

7 採種

【母本選抜】

- ・10月～11月頃、収穫前または収穫時に母本選抜を行う。
- ・1株から200粒程度採種できることを考慮し、選抜基準に照らし必要本数を確保する。

選抜項目	選抜基準
太さ	莖径が1.6cm以上のもの
分けつ	していないもの
葉色	濃緑色のもの
分岐部	ふかふかでないもの
軟白	1.6cm～1.9cmの太さのもの
病気・虫害	ないもの

＜母本にしないもの＞



分岐部のつまりが悪い



葉鞘部が太過ぎる



理想的な形状

- ## 【移植】
- ・選抜した母本をハウスまたは露地に移植する。
 - ・露地の場合は他家受粉を避けるため、近隣の交雑の恐れがある品目から隔離する必要がある。
 - ・翌年4月頃に生育を確認し、分けつしているものがあれば取り除く（ただし、種子の必要量の確保を優先する）。

8 圃場の片付け

- ・株を抜き圃場の外へ搬出し処分する。
- ・同じ圃場で同一の作物の栽培を続けると、連作障害が発生する可能性が高まるため、4～5年での輪作、適正量の施肥管理、有機物の投入、客土や深耕等を行う。
- ・栽培を重ねると、徐々に下層の土壌が固まり、排水性が低下する。10年に1度は栽培終了後に、重機で深さ1m以上の天地返しを行う。下層の清潔な土壌を表土にし、下層土が軟らかくなることで、排水性が改善される。

連作障害

- ・特定の肥料成分が多かったり、不足した状態が続くと、微量元素の過剰症や欠乏症が発生する。
- ・特定の細菌やウイルスなどが土壌中に増加したり、特定の土壌害虫が生息地として定着することで、作物が侵される。

9 病害虫防除

- ・日常の収穫や管理と併せ、生育状況等を観察し、病害虫の早期発見と初期防除に努める。
- ・病害虫は、年によって程度に差はあるが、繰り返し発生するので、発生時期や防除実績を日誌等に記録し、翌年以降の防除に活かす。

- ・農薬は「野菜類」または「ネギ」の登録のあるものを使用する。
- ・農薬の使用にあたっては、最新情報を入力するとともに、ラベルの記載内容を必ず確認して使用する。
- ・農薬の最新情報は、農林水産省「農薬コーナー」を参照。
URL: <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

【交配】

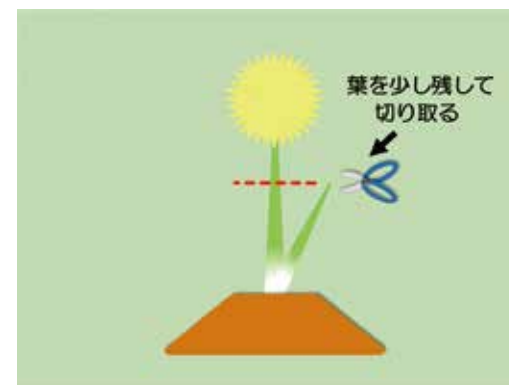
- ・露地で交雑の恐れがある場合は、開花の前に寒冷紗などで覆う等の対策をとる。
- ・交配は基本的に虫媒で行うが、露地で寒冷紗を掛けた場合やハウス栽培では人工交配（開花時期に筆や刷毛でネギ坊主をなでる）を行う必要がある。



交雑を避けるための寒冷紗

【採種】

- ・黒い種子が見え始めたなら、ネギ坊主を切り取る。切り取る際に葉を長めに残すと追熟に繋がる。
- ・1日程度日干しを行った後、風通しのよい日陰に置いて乾燥させる（乾燥が進み、種が落ちて散らばるのを防ぐため、新聞紙などを敷いておくとうい）。
- ・追熟期間は15日～20日程度とし、時々反転させカビの発生を防ぐ。
- ・完全に乾燥したら、種を落とし篩や箕を使い不純物を取り除く。



ねぎ坊主の刈り取り

【保存】

- ・種子は、密閉されていない容器や紙封筒、布袋等に入れ、湿度40%以下、温度15度程度の環境下で保存する。
- ・採種後3年程度で発芽率が落ち始めるので、早めに使い切る。

【主な病気、害虫】



【軟腐病】
葉鞘部や根に発生し、やがて全体が軟化腐敗して独特の悪臭を発する



【ネギハモグリバエ（被害葉）】
幼虫が葉の表皮下に潜って葉肉内を食害する



【さび病】
葉に橙黄色の小斑点を生じ、多発すると葉が枯死することがある



【アザミウマ類（被害葉）】
食害されると葉の表面に銀白色、カスリ状の小斑点が多発する